

1 単元の目標

日本や外国の昔話を讀んだり、読み聞かせを聞いたりし、お話の好きなところを紹介することができる。

2 指導計画(全4時間)

第1次 ・日本や外国の昔話に興味を持ち、好きな昔話の本を選んで読む。

第2次 ・読書記録の付け方を確認し、讀んだ本について好きなところを紹介し合う。

3 司書教諭、学校司書との連携及び使用図書等

- ・教科書に載っている日本や外国の昔話を中心に、司書教諭と学校司書に「むかしばなしコーナー」設置を依頼する。
- ・朝読書や図書の時間に、司書教諭と学校司書に昔話の読み聞かせを依頼する。
- ・児童の発達段階に応じた「としよのにつき」の書き方について、司書教諭と話し合い、共通理解を図る。
- ・司書教諭、学校司書との打ち合わせ
 - 11月17日(火) 単元のねらいの説明と必要な図書について依頼。
 - 11月24日(火) 「としよのにつき」の書き方、役割分担の確認。
 - 12月1日(火) 当日の授業について最終確認。

4 本時の目標

讀んだ本のことを「としよのにつき」に書き、お話の好きなところを紹介することができる。

5 本時の展開(4/4)

学 習 活 動	時	指導上の留意点及び支援・評価	使用する図書等
めあて としよのにつきをかいて、おはなしのすきなところをはっぴょうしよう。			
1 前時までに讀んだ、日本や外国の昔話の中から、好きな絵本を選ぶ。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭が本の選び方を説明し、友だちに紹介したい本を一人1冊ずつ選ばせる。 ・早く選べた児童は、絵本を読み直し、好きな場面や紹介したいことを確認しておくようにさせる。 ・紹介したい本が重なる場合や児童の実態に対応するために、同じ内容でも難易度の違う絵本を用意しておく。 	日本の昔話 外国の昔話
2 讀んだ絵本のことを「としよのにつき」に書く。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が書いた「としよのにつき」を実物投影機で拡大して見せ、書き方を確認する。 ・用紙は、発表にそのまま使える形式にする。 ・姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて、ていねいに書かせる。 ・書き出せない児童や迷っている児童に対しては、司書教諭と分担し、個別指導を行う。 ・習った漢字や片仮名、促音、拗音、助詞「は」「を」「へ」などを正しく使えるよう助言する。 	
3 「としよのにつき」をもとに、絵本の好きなところを発表する。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と児童とで例を見せた後、二人組を作って紹介し合わせ、その後全体の前での発表とする。 ・ペア発表の様子を観察し、必要に応じて個別指導を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価項目】 讀んだお話の内容や好きなところを友だちに話している。(観察) </div>	
4 振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聞いた感想や、次に読んでみたい本について発表させる。 ・これからも、読書や「としよのにつき」を続けていこうという意欲を持たせる。 	

写真① 前時までに読んだ、日本や外国の昔話の中から、好きな絵本を選ぶ場面。



写真② 読んだ絵本のことを「としよのにつき」に書く場面。



写真③ 「としよのにつき」をもとに、絵本の好きなところを発表する場面。

2人組で



4人グループで



クラスみんなに発表



子どもたちが書いた読書記録「としよのにつき」

